



社会福祉法人武蔵野

MUSASHINO

ふにれっと

【ひろがれ、かसानれ、むさしののわ】

2021
第53号



特集

新たな方法、

新たなつながり

コロナ禍での活動の工夫

●トピックス

ゆるりえラジオ体操

●食を通じて地域がつながる

地域の皆様に支えられて

●たて糸よこ糸

認定NPO法人

文化学習協同ネットワーク

●えすがれっそ

日々の活動の中での意思決定支援

上田真由

食べる楽しみを最期まで

今林由紀子

●笑門来福

笑顔のために



特集 新たな方法、 新たなつながり

～コロナ禍での活動の工夫～

**福祉事業所として今、
わたしたちにできること**

2020年初め、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、わたしたちの日常は一変しました。

新型コロナウイルス感染症の基本的な予防策は、マスク着用、手洗い・消毒の徹底と、「3密」を避け「人との接触を減らすこと」とされています。それは、福祉の根幹にある「人と人とのあたたかい交流」の機会がなくなることにつながりかねません。今までと同じやり方では、地域の方や他団体との交流ができなくなってしまうという危機感を覚えました。

コロナ禍において、わたしたちはどうすれば感染予防と両立しながら、様々な人と交流できるか、新たなつながりを作ることができているのか、楽しい活動が増やせるのかを、前向きに模索し、試みてきました。現在も試行錯誤の繰り返しの毎日ですが、今回の特集ではその一部をご紹介します。



→地図
P.8-A

..... デイセンターふれあい ONLINE

他区の事業所の皆さんと、オンライン上で交流を楽しんでいます。また、武蔵野大学の学生からソーシャルアクションプログラムの一環でご利用者の声が聞きたいとの依頼があり、学生からの質問に答えたりもしました。「最後に学生の皆さんに伝えたいことはないですか？」と職員が聞くと、Aさんは「がんばれよ」との言葉かけで、Bさんはガッツポーズで学生にエールを送っていました。

オンライン交流

ONLINE ワークセンター大地

オンライン相談室

月1回、「ikiなまちかど保健室」の活動に高齢のご利用者が参加しています。以前は境にある保健室まで足を運んでいましたが、現在は施設からオンラインで手話ソングや簡単な体操、スタッフやメンバーとの交流を楽しんでいます。大地の活動の合間に手話ソングを復習し、「また忘れちゃったよ」「これが難しいのよね」と、楽しみながら次の活動に備えています。

→地図
P.8-B



→地図
P.8-C



..... みどりのこども館 ONLINE

通園部ウィズでは通園の縮小・登園の自粛期間中、希望があったご家庭に向けて、YouTubeの限定公開で保育の動画配信を行いました。なるべく普段の保育の雰囲気が感じられるように、動画内で朝の会をしたり、事前に制作キットを送付して、動画を見ながらおもちゃを作れるようにしました。各ご家庭にお電話した際に、「画面の前で先生たちに呼びかけていました」「普段はあまり動画を見ないのに、食い入るように見ていました」等、お子さんのご様子を伺え、動画制作のヒントや手応えになりました。また、相談部ハビットでは、相談内容によってZoomでのオンライン相談にも対応できるようにしました。

動画配信サービス

ONLINE デイセンター山びこ

オンライン成人式

例年山びこメンバー全員が大きな会場にあつまって行われる「新年と成人を祝う会」。コロナ禍では通常開催が難しく、オンライン成人式となりました。画面越しではありましたが、ご利用者のみなさんがお祝いの言葉をパネルで掲げると、自然とあたたかい空気が流れ、笑顔の多い成人式となりました。

→地図
P.8-D



→地図
P.8-E

法人本部 ONLINE

オンライン職員研修

法人内の研修でも、職員は勤務している各施設からリモートで参加しています。

福祉・介護サービス従事者は在宅勤務というわけにはいきませんが、可能な場面ではICTを活用し、職員が福祉専門職として学び続けられる環境を整えていきたいと思えます。

ONLINE びーと

動画配信「びーとちゃんねる」

「長引くおうち時間でも、目的を持った生活をしてほしい」という思いから、2020年4月より動画配信を開始しました。現在も月1～2回の頻度で、Youtubeにて限定公開で配信しています。

これまでに配信した内容は、「自宅で出来るストレッチ」「正しい手の洗い方」「身だしなみ」「コロナ禍の熱中症対策」「栄養バランスを考えた食事」など。中止となった「大野田福祉の会 交流広場」の代わりに、大野田福祉の会とコラボしたエブロンシアターや、手遊び歌などの動画配信にも取り組みました。

→地図
P.8-F



→地図
P.8-G

わくらす武蔵野 ONLINE

オンライン活動参観

入所型の施設でもあるわくらす武蔵野は、感染対策としてご家族や見学者の入館を原則控えていただいています。家族会も中止となり、「施設の中でご利用者がどのように過ごしているか」をお伝えすることが難しくなっていました。

そこで、活動のライブ配信を実施しました。わくらすには毎週講師による運動プログラムを実施しており、その様子をご家族に向けてライブ中継したのです。

ご家族からは、「ライブ配信とても良かったです！息子がとても楽しそうでしたし、何よりも職員と信頼関係が築けている様子が伝わってきました」「接続に苦戦しましたが、なんとか観られました。時代に合わせていかないといいませんね」など、様々な感想をいただきました。



きいろい点字（てんじ）ブロックのう
えに自転車（じてんしゃ）をのせると

○ あなたはどう思いますか？



→地図
P.8-H

心のバリアフリー講座で使用された
スライドです

武蔵野市障害者福祉センター

ONLINE

心のバリアフリー啓発事業

さまざまな年齢や状態の方々がお互いを理解し助け合い、気持ちよく暮らし続けることができるまちをつくるための心構え「心のバリアフリー」を広める武蔵野市の啓発事業。昨年度はオンラインで出前講座を行うこともありました。一方で、「障害を抱えている方の困難を受講者に身をもって感じてもらいたい」というご要望があるときには実際に出向き、感染症対策を講じながら車いす体験等を実施。オンラインとリアル、どちらの良さも活かしながらだれもがより暮らしやすい地域を目指します。

感染予防

武蔵野障害者総合センター

→地図
P.8-E

清掃・消毒の強化
スタッフ増員で

施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生することを防ぐため、施設の手すりやドアノブなどを消毒する回数を増やしました。清掃担当職員の負担を軽減するため、新たにスタッフを増員して対応しています。

新スタッフは当法人の就労移行支援事業所「ジョブアシストいんくる」で就労トレーニングを積まれていて、即戦力として大活躍です。



※お願い！
食事中、マスクをがし
たままの飲み物はや
めましょう。

→地図
P.8-I

ゆとりえデイサービスセンター

感染予防

ゆとりえでは、ご利用者に感染症予防対策の注意喚起をするため、きれいな飾りと一緒に感染予防を呼びかける掲示物を貼っています。生活の中でさりげなく伝えていけたらと考えています。

綺麗な掲示物で
感染予防を啓発



感染予防

武蔵野福祉作業所

→地図
P.8-J

コロナウイルス研修会の開催

武蔵野福祉作業所では昨年8月、ご利用者向けに、「自分と大切な人をコロナウイルスから守ろう」をテーマに研修会を行いました。新しい生活様式に基づいた集団生活のルールや、感染防止策についての講義に加え、○×クイズに答えながら学ぶという内容です。マスクの着用、手洗い・手指の消毒、相手との距離をとる、黙食などについて、ウイルスのパネルを使うなど、ご利用者の皆さんが理解しやすい工夫をしながら学びました。その結果、ご利用者の関心が高まり、学びたい気持ちが伝わってくる研修会となりました。また、研修後にも、持ち帰ったテキストをご家族が復習に役立ててくださるご家庭もありました。

武蔵野福祉作業所内には、廊下の壁やトイレ、食堂などに感染防止策のイラストを掲示しています。日常生活の中で、改めて研修会で学んだことを思い出して、意識してもらおうことで、ご利用者の感染防止の意識が維持されるよう取り組んでいます。



opics

●トピックス

ゆとりえラジオ体操

→地図
P.8-K

ゆとりえでは、月に2回、地域の皆さんにお声をかけて、ラジオ体操を開催しています。

中庭に距離をとりつつ集まり、ラジオ体操の歌から始めて、職員のリードで第一と第二の体操をします。顔見知りの人たちとお喋りをするひとときもあり、地域の皆さんも楽しそうに参加しています。メンバーの中には以前ゆとりえでボランティアをされていた方もいて、わたしたち職員も、お元氣な姿が見れて嬉しいです。

特養に入居されているご利用者も、ベランダに出て体操し、地域と繋がる機会となっています。

この活動は、ラジオ体操をすることだけが目的ではありません。コロナ禍でも決まった時間に起きて、歩いてゆとりえに来て、みんなが顔を合わせることができかけになればと考えて始めました。

こんな時代ですから、外出を控え、



みなさん、体操がはじまると真剣です

家にいることを求められます。しかし、コロナ太りといったワードが飛び交うなど、自宅で過ごし続ける弊害も出ているように、高齢者にとっても、引きこもりから気力・体力が低下してしまふことが問題になっています。

ラジオ体操をきっかけに、感染予防に注意しながら外に出て、安全に活動する輪が地域に広がっていければいいなと取り組んでいます。

(ゆとりえ 西川 洋子)

食を通じて
地域とつながる

地域の皆様に
支えられて

●パールブーケ

→地図
P.8-L



テイクアウトのキッシュ (単品) 400円



▲パールブーケ
のInstagram

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、飲食店に対して多くの規制が設けられました。それに伴い、来店客の大幅な減少、相次ぐイベントの中止等、経営面で大きな打撃を受け、売り上げやご利用者の作業の確保など、あらゆる場面で試行錯誤を繰り返す日々となりました。

そのような中、2021年の2月から3月にかけて「武蔵野市くらし地域応援券」が発行されました。これは

武蔵野市民全員に配布され、1000円の買い物に対して500円割引される券です。この券が発行されてからパールブーケでは、なんと毎日20枚以上もの応援券の利用がありました。「こんな所にパン屋さんがあったのね!」

とおっしゃるお客様を始め、今までパールブーケに来たことがないお客様も大勢来店してくださりました。さらには、応援券の取り組み期間が終了しても引き続き来店してくださり、常連になってくださった方もいらっしゃいます。

コロナで落ち着かない情勢ですが、パールブーケでの買い物やランチの時間は落ち着いたひとときを過ごしていただけるよう、感染対策を徹底し、これからも安心してご利用いただけるよう努めてまいります。

(ワークセンター) けやき 濱田 紗希



重労働ですが、ひと部屋ずつ丁寧に整頓しています



お昼の準備中です

「協同ネット」の廣瀬日美子さんは、地域の雇用と社会復帰に悩む若者の、まさに「架け橋」を担っています。

「協同ネット」の強みは、若者との接点が豊富なこと。「ゆとりえ」で活躍する2人の雇用が実現したのも、何気ない会話から、「介護施設の仕事に向いていそうだな」という適材適所を感じ取り、若者の背中を押すことができたからです」と廣瀬さん。

介護施設は常に人材不足です。地域

認定NPO法人文化学習協同ネットワーク（以下「協同ネット」）が運営する「コミュニティベーカー」風のすみか」（以下「風のすみか」）では、社会でのつまづきなどを経験した若者に対し、様々な研修プログラムを用意して就労・自立の支援をしています。

社会福祉法人武蔵野（以下「武蔵野」）が運営する指定介護老人福祉施設「ゆとりえ」との関わりは、

コロナ禍を経て少しずつ強まってきました。「ゆとりえ」の日常業務は地域のボランティアに支えられていますが、感染拡大防止のため、この1年ボランティアの受け入れを停止せざるを得なくなりました。それでもなんとか通常業務を継続できたのは、コロナ禍以前に「協同ネット」から紹介された若者2人に、シフト交換を業務として担っていた

だけだからです。

「協同ネット」はこれからも、ただの仕事斡旋ではなく、自分も、そして地域で暮らす人も大事にできるような、生きづらさを感じる若者の居場所作りや就労の実現を目指します。それがやがて、様々な人が助け合って暮らせる「地域共生社会」の実現にもつながると考えています。

ちょっとした交流がヒントとなり、暮らしやすさ、そして生きやすさも感じられます。「協同ネット」が運営する「風のすみか」に、ぜひ気軽に立ち寄ってみてください。天然酵母のおいしいパンを通して、若者との出会いや会話が生まれるはずですよ。

（聞き手 社会福祉法人武蔵野 西川 洋子）

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介します。

たて糸 よこ糸

認定NPO法人
文化学習協同ネットワーク

認定NPO法人
文化学習協同ネットワーク
コミュニティベーカー
風のすみか

〒181-0013
東京都三鷹市下連雀 1-14-3
TEL: 0422-47-8706
E-MAIL: center@npobunka.net



「ゆとりえキッチン」で、「風のすみか」の出張パン屋を実現したい」と廣瀬さん

の若者が介護補助として力を発揮してくださることはとてもありがたく、私たちは介護業務に専念することができるようになります。そこで、廣瀬さんのように「地域の若者」と「地域の仕事」をよく知る人が間に立てば、需要と供給が満たされます。若者の社会参加の場も増え、介護現場も潤い、活性化します。

「以前、「風のすみか」で研修中の青年が、外部職場体験でゆとりえデイサービスに行くことがありました。当時の彼には社会への不自信があったのですが、入院中の祖母を見舞うときだけは「心がほっとする」と。そこで、介護補助の仕事提案したところ、「自分が必要とされている」ことに喜びを感じようになり、少しずつ自信を取り戻すことができました。彼は今、非常勤職員として「ゆとりえ」で働いています」

えすぷれつそ

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪

日々の活動の中での 意思決定支援

デイセンターふれあい

上田 真由

→地図
P.8-A

毎週金曜日の「みなさんとつくる活動」では、4〜6名の少人数のグループに分かれて活動をしています。翌月の活動はご利用者のやりたいことを、話し合いで決めていきます。私の担当しているグループでは、ご自分の意思を伝えるのが難しい方も多く、どのよう



これは何の音でしょう？「……踏切の音！」

にしてご利用者の希望を聞き、活動につなげていくか、試行錯誤しながら取り組んでいます。

ある日、グループのメンバーである視覚障害のご利用者とうっくりおしゃべりをして過ごしていた時、「上田さん、この音はなんでしょう？」と笑顔でクイズを出したり、様々な生活音を真似して楽しむことがありました。

そこから、ご本人が取り組みたいと意思表示をしてきた内容として「何の音でしょう？ ゲーム」をグループの活動に設定しました。線路を走る電車や救急車の音、お風呂が沸いた時のチャイム等、生活の中での様々な音を流し、当ててもらおうクイズを行なったところ、「知ってるー」と感じた他のメンバーの方たちもそれぞれのリアクションで答えて下さり、ご本人も嬉しうなご様子でした。

今後、ご利用者との小さなやり取りの積み重ねから、希望や意思を「みなさんとつくる活動」で実現していき、意思決定支援に繋がっていきたいと思っています。

食べる楽しみを最期まで

特別養護老人ホームゆとりえ

今林 由紀子

→地図
P.8-M

私が担当しているご利用者の中に「食べることが大好きな方がいました。しかし、体調を崩して入院されたことで、口から十分な栄養を摂ることが困難となり、胃ろうを造設されました。退院後も職員に「ご飯食べるの？」と仰り、食事が好きな気持ちはお持ちのままでした。

胃ろう造設後から体調が安定するまでの間に口から食べることは一切しておらず、このような状態で口から食べることは誤嚥性肺炎を引き起こすリスクがありました。

これを踏まえてご家族に説明すると「少しでもいいから、本人が楽しめる範囲で食べさせてほしい」と話され、私たち職員もみな同じ思いで、支援の方向性がまとまりました。

それから言語聴覚士や医師、看護師とも協力して小さいゼリーやジュースから少しずつ食べ始め、お誕生日にはモンブランを食べることができました。「美味しいねえ！」とおっしゃったあの笑顔は今でも忘れられません。

その後、徐々に胃ろうからの栄養も摂れなくなり、体調を崩され、ゆとりえで看取ることとなりました。

私はこちらの方から、「食べる楽しみを持ち続けること」「これまでとできるだけ変わらない生活を送れること」を多職種で連携し、最期まで支え続けることの大切さを学びました。



ある食事の風景。ゆとりえでは食を通じた支援に力を入れています

